

維新前夜、津軽海峡を越えて蝦夷地へ渡った男たちがいた。

幕命を受けた東北・仙台藩の藩士たち。その使命は南下政策をとるロシアの脅威から、蝦夷地を守ることにあった。

安政2(1855)年3月、幕府から蝦夷地警備を命じられた仙台藩では、出入司兼公儀使三好監物、氏家秀之進らの蝦夷地探索により、元陣屋建設の適地として三方を山に囲まれ、東西に川が流れる自然の要害の地を、白老ウトカンベツに見出した。

安政3(1856)年9月、元陣屋を築き、東蝦夷地と呼ばれた太平洋岸の広尾・厚岸・根室、そして国後・択捉にも出張陣屋を置いた。



▲仙台藩白老元陣屋之図

ボランティア解説員
友の会がおもてなし
ガイドはお任せください



日本語／英語／中国語／韓国語に対応
多言語音声ガイダンスシステム
ご希望の方は無料でご利用出来ます

自然の地形を巧みに利用した道内最大の陣構え



三好監物自画像

昭和59(1984)年、陣屋跡に併設して開館した仙台藩白老元陣屋資料館は、武家屋敷をモチーフとしたテーマ博物館である。

蝦夷地出兵、陣屋造営の経緯、藩士の暮らしや先住民族アイヌとの交流の歴史を、蝦夷地の絵図面や縄張図、文書などの豊富な資料とともに紹介している。

また、展示会や講演会、陣屋跡を活用した各種体験交流事業なども、積極的に展開している。



武家屋敷を模した仙台藩白老元陣屋資料館

◆利用案内

- 開館時間 AM9:30~PM4:30
- 休館日 毎週月曜日(祝日にあたる場合は翌日)
年末年始 12月29日~1月3日
- 入館料 高校生以上300円
(20名様以上団体料金250円)
小・中学生150円
(20名様以上は団体料金120円)
ウポボイ入場者、JAF、Times会員は団体料金
白老町民は無料
- 駐車場 普通車26台 大型バス可能

◆アクセス



◆近隣施設

- 国立民族共生公園『ウポボイ』 ●国立アイヌ民族博物館



【お問合わせ ☎0144-82-3914】
ウポボイは、わが国の貴重な文化でありながら存立の危機にある、アイヌ文化を復興・発展させるナショナルセンターです。

将来に向けて先住民族の尊厳を尊重し、差別のない多様で豊かな文化を持つ、活力ある社会を築いていくための象徴として位置づけられ、2020年に開業しました。

- 白老観光インフォメーションセンター

【お問合わせ ☎0144-82-2216】
いずれも当館から2.4km、自動車です約5分

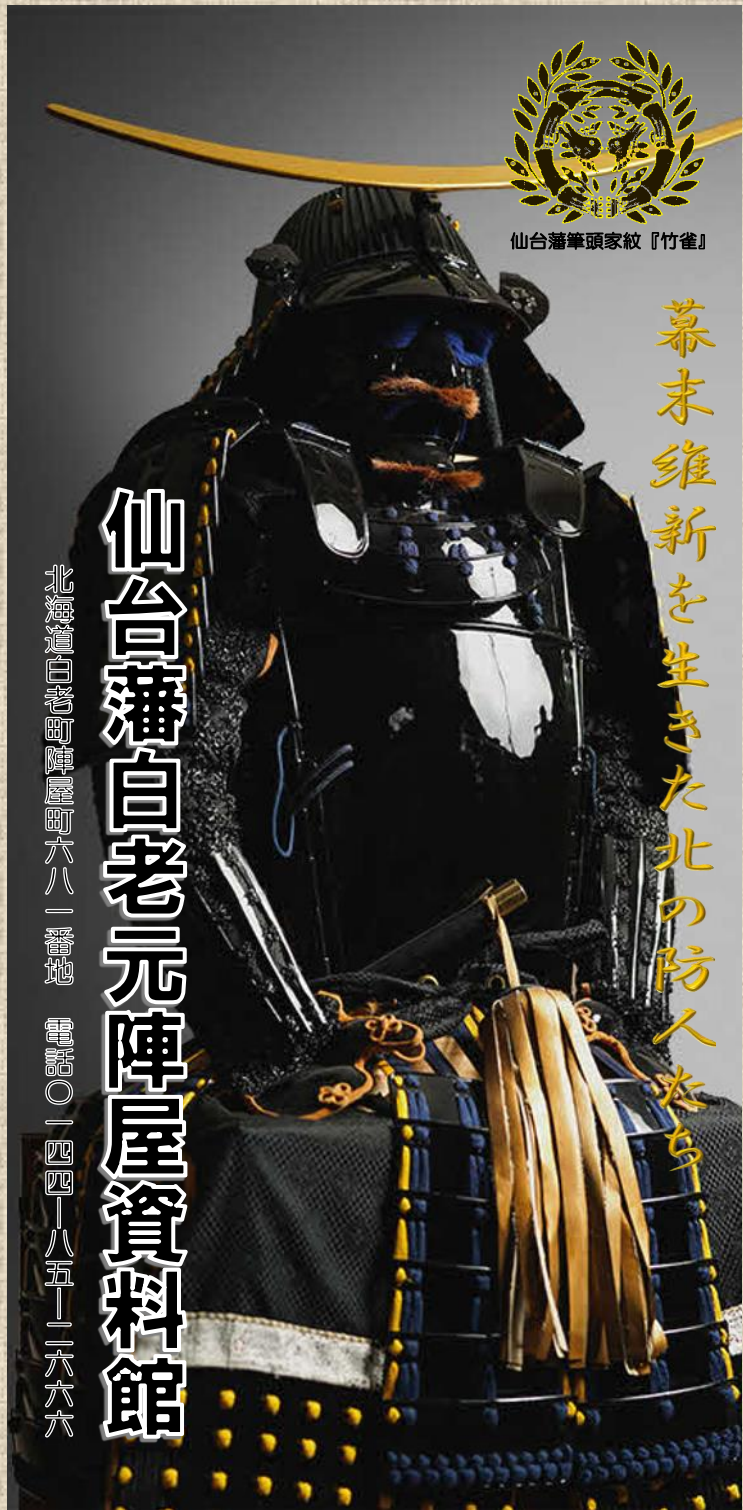
北海道白老町陣屋町六八一番地 電話0144-82-2216

仙台藩白老元陣屋資料館



仙台藩筆頭家紋『竹雀』

幕末維新を生き延びた北の防人たち





幕末維新、蝦夷地最大の陣屋



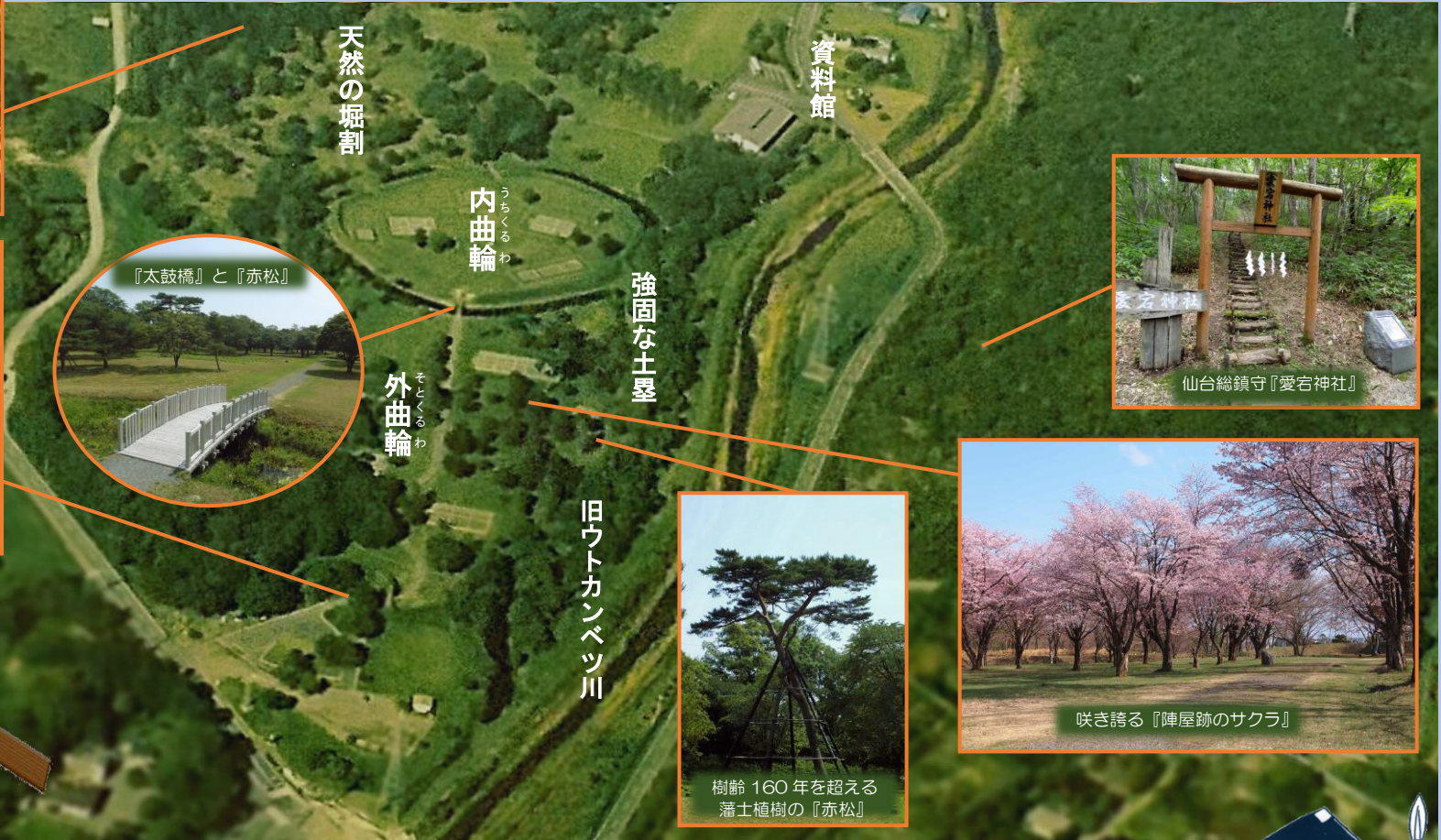
史跡白老仙台藩陣屋跡



奥州一之宮『塩釜神社』



屈強に築かれた『馬出し』と『虎口土塁』



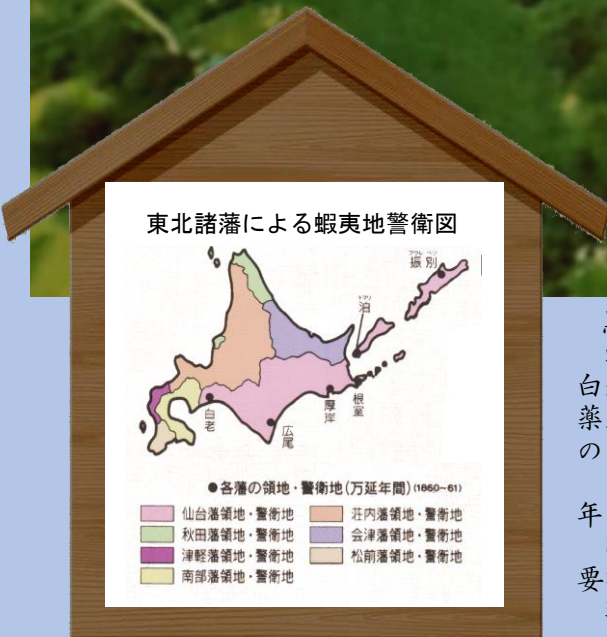
仙台総鎮守『愛宕神社』



樹齢 160 年を超える
藩士植樹の『赤松』



咲き誇る『陣屋跡のサクラ』



黒船来航による鎖国の終焉に伴い、幕府の対外政策は風雲急を告げた。蝦夷地における諸外国との戦いを見据え、その防衛拠点としての陣屋警衛を命ぜられた仙台藩では、白老に元陣屋を構築した。高い土塁と堀割のなかに、本陣・勘定所・兵具蔵・兵糧蔵・馬屋・稽古屋・火薬庫・大手御門・表御門などの施設を備え、4棟の長屋には、120人の藩士たちが駐屯し、厳しい北辺の気候風土に耐えながら、決死の覚悟で任務に従事した。

しかし、慶応4(1868)年7月、戊辰戦争のさなか仙台藩士たちは白老からの撤退を決め、安政3(1856)年から12年間続いた北方警備の歴史に突如として幕を閉じた。

昭和41(1966)年3月、国の史跡に指定された白老仙台藩陣屋跡は、主要部だけで66,000㎡、自然の要害として利用した東西の河川と丘陵地を含めると、その大きさは352,000㎡にも及ぶ。

環境整備が施され、テーマ博物館を併設した幕末蝦夷地の姿を体現する北海道を代表する遺跡である。



マスコットキャラクター
陣屋くん